

## 第4回「札幌市 ICT 活用戦略」策定検討有識者会議 議事録

### ●開会

(委員)

開始時間となりましたので、第4回「札幌市 ICT 活用戦略」策定検討有識者会議を開催いたします。

よろしく願いいたします。

本日の会議では、戦略の素案について、意見交換をしていきたいと思っております。

なお、本日はお一人の委員にはネットにて参加いただいております。マイクを設置しておりますので、大きめの声でご発言をお願いします。

### ●事例紹介

(事例の紹介)

### ●資料説明

(委員)

それでは、本日のメインの意見交換に進んでまいりたいと思っております。次の議事に移らせていただきます。まずは、事務局からの説明を行いますので、お願いします。

(事務局)

それでは、資料に基づき、「札幌市 ICT 活用戦略素案」の概要について、ご説明させていただきます。

こちらは別途配布しております素案本書の流れに沿って、第1章から第8章まで、主な項目を抜粋して記載しているものです。

資料の1枚目をご覧ください。

「第1章 札幌と ICT」では、これまでの取組について触れております。

札幌市では、ICT が急速に普及する前から、その重要性と可能性に着目し、まちづくりへの活用を進めてまいりました。

1980年代の前半から ICT 関連の企業が立地し、産学官の連携による産業振興や人材育成を進めることで、ICT 産業は札幌の基幹産業の一つとして発展してきました。

具体的には、産業団地であるテクノパークの造成や ICT 産業振興の拠点としてのエレクトロニクスセンター設置、「サッポロバレー」への集積があります。

また、平成9年には「札幌市情報化構想」を策定し、インターネットの活用を主眼に置いた取組を進めてきました。

具体的には、コールセンターの開設や公共施設予約システムなど各種システムの整備、ウェブサイトによる情報発信などを行いました。

続いて、「第2章 戦略の策定に当たって」をご覧ください。

「1 趣旨」では、本戦略を、札幌市の総合計画である「札幌市まちづくり戦略ビジョン」及び「アクションプラン 2015」においてそれぞれ描いた目指すべき都市像や未来の札幌の姿を実現するため、ICT の活用を進めるに当たっての指針とすること、また、「2 位置付け」においては、目指すべき都市像や未来の姿の実現に向けて、他分野の施策とともに推進するものであること、また、計画の期間として、中期的な将来を視野に入れつつ、平成 29～31 年度の 3 カ年については事業の具体化を図ることについて記載しています。

続いて、左下の「第 3 章 戦略策定の背景」をご覧ください。

こちらでは、ICT 環境の変化、特に「第 4 次産業革命」といった大きな変化が進んでいることや、それに伴う国の動きについて記載しております。

その右側には、札幌市民の ICT 活用状況と ICT 活用に関する意識を記載しています。

こちらに記載させていただいたとおり、札幌市民のインターネット利用率は平成 27 年には全年齢で 68.4%、50 代以下では 8 割以上となっております。

また、札幌市の情報化施策に対する評価としては、「各種申請等の電子化」、「ホームページによる情報提供」について一定程度のご評価を頂いており、今後の行政サービスの電子化については、7 割以上の方にその推進に理解を示していただいているところであります。

一方で、個人情報に対する関心は高く、今後の取組においても、個人情報の保護に注意を払うべきとの意見が多くなっております。

そのほか「4 ICT 活用に係る札幌の強み」として、札幌の主要産業の一つでもある ICT 関連企業の集積や、実験的精神と進取・挑戦の気質、様々な施設や特徴的な気候条件等の実証実験に適した都市環境、質の高い人材の輩出を挙げております。

また、「5 ICT を活用する上での札幌の課題」としては、除雪を始めとした様々な市民ニーズに対して、いかに ICT を活用していくかという「1 市民ニーズへの対応」、個人情報やプライバシーの保護に関する市民意識の高まりもあり、最新技術を活用したセキュリティ対策を継続的に行う必要性があることから「2 セキュリティの強化」を、インターネットなどの ICT 利用に慣れていない方など「3 様々な人々や利用環境への対応」、新たなサービス等の創出などに向けた「4 オープンデータの積極的推進」、ICT 活用において戦略的に「5 情報政策を統括する組織の構築」といった課題を挙げています。

続いて 2 枚目をご覧ください。

こちらでは、本戦略の基本方針を図としてまとめております。

上段やや下の中央にあるとおり、本戦略の目標を「Sapporo Value、札幌の価値の創造と向上」としております。

「札幌の価値、Sapporo Value」には、その下の吹き出しにあるとおり、「札幌で便利に暮らす価値」や「安心して過ごす価値」、「事業を営み、投資する価値」、「働く価値」、「学ぶ価値」など、様々な価値があると考えます。

それらの価値を、ICT を活用することで高め、生み出すという取組の方向性を、この目標では示しています。

「価値の創造」の取組としては、左側にありますとおり、「イノベーション・プロジェクト」を実施します。こちらの詳細については後ほどご説明します。

また、「価値の向上」の取組としては、これまでの会議でもご説明させていただいておりました「ICT活用の基本施策」を位置付けています。

これら、価値の創造と向上の取組成果を、ショーケースとして見せていき、札幌市がICT活用のトップランナーとして注目されることで、さらなる Sapporo Value の創造、向上につながるものと考えております。

続いて3枚目をご覧ください。

こちらでは、先ほどご説明した基本方針のうち、価値を創造する取組として「第5章イノベーション・プロジェクト」を進めることとしています。

イノベーション・プロジェクトとは、戦略の目標達成に向けた先進的、分野横断的な取組であり、イノベーションの創出により新たな価値の創造につながるプロジェクトとして、重点的に推進するものです。

「第4次産業革命」として、IoT、AI、ビッグデータなどの技術が使われることで、ものづくりやサービス、人々の生活を劇的に変化させると考えられている中で、札幌の新たな価値を創造していくためには、その急速な変化に対応し、他都市に先駆けて取り組む必要があることから、「ビッグデータ」活用をテーマとしたプロジェクトを重点的に進めることとしています。

当プロジェクトにおいては、官民が保有するオープンデータ・ビッグデータを収集、管理するためのシステム及び体制として「札幌市ICT活用プラットフォーム」の構築を進め、先端技術を活用した新たなビジネスを創出することを目指す産学官連携組織である「札幌市IoTイノベーション推進コンソーシアム」と連携して、ビッグデータの活用促進を目指します。

また、札幌駅前通地下歩行空間を最先端のサービスが集積する「ICT活用のショーケース」と位置付け、センサー等による人流情報や属性情報といったデータを収集・活用する取組を先行的に実施することとしております。ここで得た結果はプラットフォームの内容に反映してまいります。

取組のイメージについては右側の図をご覧ください。

図の左側に記載しておりますとおり、ビッグデータの活用にあたっては、データを「集める」、「蓄える」、「活かす」という流れで進める必要がございます。

その右の列にはICT活用のショーケース化を目指すチ・カ・ホでの先行取組について載せておりますが、チ・カ・ホに設置した各種センサー等から移動ルートや滞留状況、属性情報といったデータを集め、都心版データプラットフォームに蓄えます。

そこで得たデータを、サイネージやスマートフォンを活用した各種サービスの実施による「誘客・案内」や周辺民間事業者との情報連携による「マーケティング」、適切な避難口への誘導などの「防災・防犯」に活用していきます。

こういった取組を踏まえて、右側に記載しているとおり、行政保有データやセンサー等により収集したリアルタイムデータ、民間が保有するデータを活用するためのシステム及び体制として「札幌市 ICT 活用プラットフォーム」の構築を進めていきます。

当プロジェクトでは、様々なビッグデータの活用を通して、新たな価値の創造につなげていくことを目指しています。

次に4ページ目をご覧ください。

ここでは「第6章 基本施策」として、六つの分野における取組を記載しておりますが、数も多いことから、主なものを抜粋してご説明いたします。

一つ目は「基本施策 1-1 暮らしの質の向上」です。

中段にある「(3) 健康・福祉サービスの充実」をご覧ください。

これは、運動や健康診断の受診といった健康増進の活動に対してポイントを付与することで、市民の健康づくりを促すとともに、国民健康保険などの医療費データと連携することで、事業の効果測定等におけるデータ活用を実施するものです。

次に「(6) 雪対策の充実」です。

これは、市民からの要望が最も多い雪対策に関連した項目であり、冬季の道路状況を把握するなど除排雪業務におけるビッグデータの活用や、担い手不足の解消や技術の継承を目的としたナビゲーションやGPSなどの活用を検討するものです。

次に中央の列をご覧ください。

「基本施策 1-2 安全・安心の実現」です。

「(1) 災害情報の収集・発信・伝達の強化」においては、災害時に必要な、正確な情報が迅速かつ効果的に伝達可能なシステムの構築や、スマートフォンを活用した情報発信手法について検討するものです。

中央の「(5) 都市インフラの効率的な管理」については、都市インフラの異変察知等を的確に行うため、センサーネットワーク等の活用も踏まえた管理体制を検討するなど、市民が安心して暮らせる都市づくりを推進するものです。

続いて「基本施策 2-1 産業の振興」です。

一番下の「(2) ICT の活用による多様な産業の付加価値向上の支援」は、市内 ICT 企業と多様な産業分野との連携を促進、支援することで、新たな製品・サービスの創出や販路拡大、付加価値の向上を図るものです。

また、右列中段の「(6) 実証実験の促進」では、国内外の ICT 企業による多様な実証実験事業の誘致を図るため、支援を行うワンストップ窓口を創設することを考えています。

次に「基本施策 2-2 多様な雇用と働き方の創造」です。

「(1) テレワークの推進」では、就業の意志がありながら、結婚、出産、育児、介護等の様々な事情によって退職や転職などを余儀なくされた人が、就業できる環境を作るため、企業に対するテレワークの普及・啓発及び導入支援を行います。

また、一番下の「(4) 札幌市図書・情報館における各種支援の実施」については、平成 30 年 10 月に都心部でのオープンを予定している「札幌市図書・情報館」において、コワーキング・コミュニケーションスペースを設置し、モバイルワークの利用環境を提供することとしています。

続いて、5 ページ目をご覧ください。

一番左の「基本施策 3 人材の育成」についてです。

「(3) 情報モラル教育の実施」においてはインターネット利用の定着とモバイル機器の低学年への普及を背景に、情報モラル教育の重要性が高まっていることから、情報化社会の倫理や法の理解、自らの身を守るために必要な知識の習得等を図ります。

下から二番目の「(7) ICT 活用をリードする人材の育成」は、札幌市の地域課題の解決や新たな市民サービスの開発やその担い手となる人材育成を目的に、アイデアコンテスト等を実施し、アプリ開発等を行いながら人材育成を進めるものです。

最後に「基本施策 4 効率的で信頼される行政」です。

「(4) 様々な人々や利用環境への対応」では、インターネットを利用しない人や外国人など、様々な人や利用環境に対応した情報やサービスの提供を行うものです。特にホームページの情報発信に当たっては、ユニバーサルデザインに配慮いたします。

一番下の「(6) オープンデータの推進」においては、行政が保有する情報を積極的にオープンデータとして公開することで、民間と協働した活用を促進していきます。

続いて、右側の列をご覧ください。

「第 7 章 主要事業一覧」においては、「第 6 章 基本施策」と関連する個別事業を掲載しております。なお、12 月下旬のパブリックコメント実施時には、29 年度予算要求の情報を追加する予定です。

最後の「第 8 章 戦略の推進に向けて」では、四つの項目を記載しています。

「1 戦略的に情報政策を統括する組織の設置」については、ICT 活用の在り方について、費用対効果や持続可能性などの視点を交えて検討し、本戦略を着実に推進する組織を設置するものです。

「2 産学官連携による進捗管理」として、イノベーション・プロジェクトなど重点的に推進を図る事業については、有識者から事業成果の評価、課題の抽出、解決に向けた助言・提言を頂く体制の構築を想定しています。

「3 技術の進歩や環境の変化に合わせた柔軟な推進」としては、本戦略の策定後も、情報通信技術の進歩や社会環境の変化に合わせて、事業の見直し等を行うことで、戦略の柔軟な推進を図ることとしています。

最後に「4 他機関との連携」においては、国・道・市町村及び関係機関と広く連携し、国等の支援も積極的に活用しながら、事業の推進を図ることを記載しております。

本日は、特に「第 4 章 戦略の基本方針」、「第 5 章 イノベーション・プロジェクト」について、ご意見いただければと存じますので、よろしく願いいたします。

資料の説明は以上です。

●委員による意見交換

(委員)

はい、ありがとうございました。未定稿ということで、現時点の札幌市 ICT 活用戦略の素案をいただきました。これについて、自由に意見をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(委員)

最初に気になるのは、第2章の個別計画ですが、総合計画を踏まえて個別計画に移って、それぞれの個別計画を横断的に見ているのが「札幌市 ICT 活用戦略」であるというふうな表現がなされていますが、この会議自体、そのような仕立てで来ていなかったと思います。それぞれビジョン、計画があって、こんな街にしたいということが書いてあったと思いますが、それを見ないまま、ICT で何ができるのかという話をずっとしてきたので、事実と異なる図なのではないかと思います。

概要③の第5章ですが、「チ・カ・ホでの先行取組で期待される効果」とあります。運営会社が札幌駅前通まちづくり株式会社だと思えますが運営主体との話はどのようになっているのかな、見えているのかなというのが一つです。

いろいろなセンサーを付けてなっていますが、一般の人の気持ちで考えると、過剰な反応が来るのではないかと。センサーを付けて何を調べているのか、情報としてちゃんと整理して、個人を特定できないようにしているといくら説明しても、気持ち悪いと思う人はいると思います。その辺の過剰反応については、どのように考えているのかというのが二つ目です。

三つ目は、第6章で、いろいろ挙がっていますが、何がどれくらい Sapporo Value なのかわからない。他の街、行政で取り組んでいることも多々あるでしょうし、札幌はどのくらい日本の中で一歩進んでいるのか、ある程度、他の市町村もしているグレードでして、そこから抜き出ようとしているのか、よくわかりません。新しいものと今やっているもので印が変わっているのはわかりますが、その辺が気になって、Sapporo Value がよく見えない資料だなと思いました。

(委員)

他はいかがでしょう。

(委員)

私が受けた印象です。ビッグデータをとるのにチ・カ・ホを活用するとありますが、そこ

に動いている人のデータしか集められないだろうなというのがまず1つ。動いてこない、動けない、行けない人のデータはどうするのかなどと思いました。札幌市民の生活の向上、札幌に住んでいて良かったなどするには、その辺を考えなければいけないのかなと。

第6章の基本施策①の「(3) 健康・福祉サービス」の充実とありますが、これはこれで大事だと思いますが、見えてこない人たちが市民の中に多くって、見えていないからいないと思われている節が多々あります。私たちは、見えていない人の中で仕事をする人が多いので、むしろ見えていない人のほうに健康課題が大きかったりします。夕張で、7年間ボランティアで市長の応援役をしたのですが、その中でよくわかったことは、見えていない人は出て来ないからで、保健師さんや地域に入っている人たちできえ、捕まえていないんです。介護保険ができてしばらく経っていた時期でも「なんじゃそれは」と言われたことがありますし、「あなたこそ、活用しなさい」というような人でも、何年も知らないままです。最終的に見つかったときには、膨大な医療費がかかる。これを背景にすると、見えない人たちをどうするのか。「札幌にいてよかったね。見えなくてもちゃんと数えてくれている」そういう視点が欲しいと思いました。

(委員)

他に何かありますか。

(委員)

お二人の話を聞いていて、札幌市民としてそういうことは重要なのですが、私は今、この素案を見せていただいて良かったなと思ったのは、前向きに進もうとしているのがすごく良いなと思いました。たしかにいろいろな方がいらっしゃるし、ずっと札幌のICTが下火になって、「もう札幌ってICTをやっていないのじゃないの？」という勢いになっている所で、例えばチ・カ・ホなどで、特定の人たちかもしれないけれど、札幌はまだICTでがんばっているよというような花火のようなものを上げないと、その後の下を支えている所に行けないんじゃないかと思っていました。その点では、まず、札幌はまだICTでがんばっているというのがこの素案の中に見えて、私は、そこは良かったと思います。

たぶんいろいろな問題はあると思いますが、この計画のスタート段階としては、下から詰めていくのではなく、上からぼんと花火を上げるような、そういうような考え方が必要かなと思いました。

(委員)

他はいかがでしょうか。

(委員)

私も最初の先行でというのは分かりやすく良いと思っています。要版には出ていない

のですが、素案の方で、テレワークの推進の所です。札幌市はテレワークについてどういう方向かが見えにくい文章があったので確認させてください。

38 ページの所に、ICT 活用施策に「(1) テレワークの推進」とあります。「就業の意志がありながら、結婚、出産、育児、介護等、様々な事情によって就業を断念したり、就業形態の変更を余儀なくされた人が、ICT を活用することで就業できる環境を作るため、企業に対するテレワークの普及・啓発及び導入の支援を行います。」ということで、これは、概要版の方にも書いていただいているのですが、実際に重要なことです。企業に対するテレワーク導入の普及・啓発というのは、今、会社で働いている人がそのまま働き続けられる在宅勤務等をやっていくということです。これに対して、ここに書かれているような、仕事を断念したり、正社員から業務委託になった人への対策としては、テレワークについてぶれているかなと思いました。

札幌市としてテレワークに関しては、企業の方のテレワークをしていくのか、会社を辞めてしまった女性やそういう人たちに仕事ができるよう支援していくのか、どちらなのか。目的だけ考えると会社を辞めた人となっているし、実際の施策としては企業に対していくとなっている矛盾だけ教えていただければと思います。

(事務局)

ありがとうございます。38 ページのテレワークの書きぶりがおっしゃるようになっているのは、現在、今年度から経済観光局の方で取り組んでいる「テレワークの実証事業」というのがありまして、この取組が、先ほど言われた中では、今、実際に働いているけれども何らかの事情で辞めなければいけない、続けられないという方がいる中で、そうした方々にテレワークという手法を使って、企業に対して支援したいということが事業として行われていますので、そのことの記載が出過ぎていました。後半言われたことをやらないということではなくて、今、やっていることを中心に書いたのがこのような表現になっているので、おっしゃったような部分をやらないということではありません。ただ、経済観光局だけで担うのか、札幌市の行政として担う部分もあるので、そこを整理して、書き直したほうが良いかなと思いました。

(委員)

ありがとうございます。再度お伺いするのですが、札幌市としては、会社を辞めた人が家で、業務委託の自営型でテレワークを推進するのか、企業に在宅勤務の制度などを入れてもらって、今いる人たちが働き続けるようにするのか、この二つは、方向性が異なる大きな施策です。両方されるのか、どちらかにするのか、一言でお答えいただければと思います。

(事務局)

現状の考え方からすると、企業への導入を支援するという方です。



(委員)

オープンデータとビッグデータ、AI というのがいろいろな所で出てきますが、IoT を使ってビッグデータ化しないと AI は動かないのです。例えば、いかにして札幌市がもっているデータをオープン化するか、もしくは、して良いかどうかも含めて、IoT プラットフォームかもしれませんが、組織が推し進めるということをもっと出しても良いと思います。ビッグデータ化したときに、どういったデータがどこに貯まっているのかということも、何らかの形でしたほうが良いと思います。産業界からすると、様々なビッグデータがあることは分かるのですが、それをどうやって利用すれば良いのか、そこに IoT を使ってセンシングしたデータをビッグデータ化して AI にかけていく、あるいは様々な産業に使っていくというのがビジネスとして想像されるので、あやふやな印象があります。IoT を使って新たな機器ができるでしょうし、これからは、あらゆる創造が必要になるし、それが早く実現できるような時代になっていくと思います。そういうことを分かりやすくしてもらいたいかなと思いました。

(委員)

事務局からコメントはありますか。

(事務局)

行政が持っているものをオープン化していくことと、もう少し大きな意味で、おっしゃられた通り、7月に立ち上げたプラットフォームの協議会がありまして、ここでは行政のデータのオープンもありますが、それ以外の民間の持ったもの、IoT をセンシングしたものを入れている中での取組となっています。そこで、大きなものが何をしていくのかを明確にしたほうが良いのかなと。行政の中だけではなく、もっと大きなものを書いてほしいということですね。その辺は、別にプラットフォーム協議会がありまして、その内容を、戦略の中に入れていくとなっていますので、現段階の素案では入っていませんが、今後、入れていきたいと思っています。

(委員)

他にありませんか。

(委員)

二つあります。まず第1に、イノベーション・プロジェクトという形にして提案しているのはすごく良いことだと思います。ぜひ、この方向で進められればと思います。その中で、イノベーション・プロジェクトの一つのショーケースとしてチ・カ・ホで実施するのは良いと思いますが、それが一番の現場だとはならないと私は思います。「そこに歩いている人の

1割じゃなくて1.5割の人に売れる」というのではなく、「これまで人しかできなかった判断などが機械で出来るようになる」というのが大きなイノベーションだと思います。ビッグデータというのは、人が動いている、物を買うというような、小売りから出てくるビッグデータからマイニングして利益を生み出せるので得だとか考えがちですが、もっと人の知恵が反映されている判断が入っているようなビッグデータを集めて、そこから知識を抽出して産業に結び付ける。そういうことを主力にした方がもっと有用だと思います。そういう活動が行われている、そういうことをしている人が集まっている、企業が集まっている街とした方が良いと思います。チ・カ・ホをショーケースにするのは良いと思いますが、ビッグデータの対象だとか、事業化する対象が、歩き回っている大衆だけではないと思います。例えば、実証をするときの、車でいえばテストコースみたいな、ドローンを飛ばすなど、実証、検証できる場をチ・カ・ホ以外で提供するという。いろいろな札幌市や企業で蓄積されたデータをかき集めて、良いサイクルで工夫していくような、具体的な場を作っていくようなことが入っていると良いと思います。

もう一つは教育のことです。本編の40ページに書いてありますが、ここで書かれていることはICTで勉強するということであって、ICTを含むイノベーションのための教育を授けるということがあまり書かれていないかなと思いました。先日、テクノパークフェスタに伺いました。小学生や就学前の子どもたちが、プログラミングのベースになる考え方を教育しているグループがありました。プログラミングというのは、イノベーションを起こすための重要なツールだと思います。自分がイノベーションを起こすための道具を手に入れるということ。そういうイノベーションの担い手になるための教育をしていくことが重要だと思います。図書館の利用に関する記載などもあって思い出しましたが、何年前かに石井裕さんの奥さんの菅谷さんという方が中央図書館で講演して満席でしたが、ニューヨークの図書館ではイノベーション教育をしている、起業するための勉強をするのに図書館に来るといってお話をしていました。札幌市の中央図書館はよくご存じかと思いますが、そういうことが頭にあるのかなと思いました。ぜひやってほしいです。この資料ではICTの事業をまとめているので限定的になるかもしれませんが、図書館をベースにして、施設を利用して、イノベーションを理解してくれる人を世代を問わず広めていく。2020年からプログラミング教育が義務化されますが、対象の世代やテーマを広げ、イノベーションに向けて人を底上げしていくようなことが入っているといいかなと思いました。

(委員)

他は何かありますか。

(委員)

今日は4回目ですが、過去3回議論した結果の反映が素案に盛り込まれているというよりも、飛躍しているということは思いました。前回か前々回に、具体的にどんな問題があっ

て、どういう課題を解決するのかということを一覧アップしたほうが良いという議論があったと思います。この素案は、札幌市が持っている課題にはこんなことがあって、それを解決するためのものだと理解できるかなと思ったのですが。概要④の基本施策①の「(1) 情報提供・情報発信の強化」とありますので、今はまだ情報発信ができていないから、それを盛り込んでいるという理解で良いですか。ここに書かれていることが、札幌市が持っている課題ということで良いのでしょうか。

(事務局)

全てではないですけども。

(委員)

問題をカタログ化しているということですね。問題があるから、こうした施策に落とし込んでいるということで理解しました。

その上で、この全てを実現するのか、どのポイントを重点的にするのかは、このテーブルでもう少し揉んだほうが良いのかなと思いました。

それから、センサーなどをチ・カ・ホに設置してどんな使い方をするのか、気持ちが悪いというご指摘がありました。概要③の表の上段に「集める」とあるのですが、これは集めるではなくて「集まる」なのかなと。市等が情報をセンサーで集めるのではなくて、市民の情報を徹底的に集めるというアプローチと、市民が自発的にそこにデータを蓄えるというか、データバンクみたいな、情報をどこまで使えるかという範囲を「オープンデータコモンズ」、つまり「クリエイティブコモンズ」のデータ版みたいな考え方があります。収集されたデータが自分で管理できる、範囲を自分で規定できるという内容を盛り込むことで、集めるというよりも集まるというスキームにして、個人情報に対する配慮を気にすることと折り合いもつくと思いました。

素案の中の話ですが、3 ページ目で過去の札幌市の ICT 企業の集積やクリエイティブ産業の発展の説明の中に、いくつか抜け落ちていることがあったと思います。直近では、ユネスコ創造都市に加盟していることがありますが、これも ICT 関連、クリエイティブ産業関連の施策の一つだと思います。ユネスコ創造都市で札幌市はメディアアーツ都市として加盟していますが、なぜそれが承認されたかという理由は、メディアアーツといえ、プロジェクトマッピングで絵と音というイメージがありがちですが、それだけではなくて、都市が一つのメディアとして市民に創造性を発揮するための取組をしているということが評価されたと思います。つまり、そのうちのひとつとして大通公園の祝祭空間として雪まつりやオータムフェストやジャズフェスがあるとか、市民の創造性をそこで発揮するために公共空間を使っているという点が評価されたと聞いています。

先ほどのチ・カ・ホをメディアにしたかどうかという話も、これに近くて、市民の創造性を公共空間で気付きを与え、発揮させるということに活用できないかと考えているので、ユ

ネスコ創造都市に加盟しているということをうまく活用することの施策にもつながると思います。ですので、ユネスコのことを書いたほうが良いと思いました。

最後、札幌市 ICT 関連企業が集積しているという所では、確かにそうですが、実際には人手が足りなくて、人手不足です。それは、学生の情報離れというのを聞いたりしますし、企業としては、人材育成のために一肌脱ぐことはやぶさかではない話です。本当に役立つ人材を育成するというニーズと、市政として ICT を活用していくという方針として打ち出すのであれば、人材の育成確保が大きく求められてくると思います。教育と経済活動のリンクをもう少し明確に、制度等、インターシップや、大学か高校か中学校のカリキュラムの中に、民間企業の社員が講師として入るというような取組を考えていくのも良いかなと思いました。

(委員)

いかがでしょうか。

(委員)

今のお話を聞いていて、概要の所で、チ・カ・ホの空間の所とか、部分的な所は具体的に なっていて、ある所は No Maps とか具体的に出ています。このようなまとめ方になるのでしょうか。

というのは、これからそういったものを、これを基にしていろいろなことをやっていくんだということを謳って、「例えば・・・」というなら良いのですが、決めてしまっています。産業界からするとチ・カ・ホの人数を数えても、何も起きないように思います。ただでもできるというならわかりますが、お金がかかりますね。その辺のところはどうなのでしょう。

(事務局)

ここは、まとめる時に苦労しているところです。この図にある価値の向上という部分の ICT 活用の基本施策が並んでいますし、その隣には、価値の創造ということでイノベーションがあるのですが、今、実際に行政として既に取り組んでいたり、取り組んでいる事業部門が実際に課題を感じて施策として展開している、これから展開しようとして既に考えているというのが、具体的に載っている基本施策です。しかし、ICT 戦略をこれから定めているいろいろなことをやっていって、さらにはイノベーションを起こし、価値を高めていくということをする時には、それだけじゃ駄目だよねというのがあって、そのためにイノベーション・プロジェクトとして、イノベーション側の記載があります。これこそが札幌市の ICT 戦略として書きたいのですが、ここはまだ誰もアイデアをもっていなかったり、これから考えていかなければならなかったり、夢のようなことも含めて、実は書いていける部分かなと思っています。ここにどれだけのことが書けるかな、でも書き過ぎることもできないというこちらのジレンマもあります。それで分かりづらくなっているのかもしれない。右側の価値の

向上で基本施策としていることがとても具体的で、価値を創造していこうという部分がボヤッとしていて、そのボヤッとしていることも書かなければいけないということで、今後、チ・カ・ホをショーケースにしていろいろな展開をきっかけとしてやって、その先にもっと大きなことをしていきたいということを含めたいのですが、そこまで書けていないのかなと思いました。

先ほど、おっしゃっていた人材育成についても、こうした価値を高めて基本施策を実践していく教育以外に、イノベーションを起こしていくための人材育成もしていかなければいけないのですが、そういう部分を書けてないんだなと思いました。そこをどこまで書くのかは、このテーブルで、有識者の皆さんから、イノベーションまで考えているなら、ここまで言ったほうが良いと言っただけであれば、やりますということまでは書けないかもしれませんが、イノベーション・プロジェクトに書いていけたらという思いはあります。ぜひ、そのようなお話をここでいただくと、書き込みが厚くできて少し前向きで、夢のある戦略にできるのかなと皆さんの話を聞いて思っていました。

(委員)

今のお話を聞いていて、章の流れがまずいのかなと思っていました。チ・カ・ホでこういうことをやるよ、No Maps でこういうことやるよというのは、この戦略の中のいくつかあるものの中ですぐにできることだと思うのですが、それが前に来てしまっているのがおかしくて、全市民に対して、私たちはこんなことを考えているということを6章にあるように、こういう分野にはこういうことをしようとしている、でもまずショーケースとして札幌ありきを見せるためにこれがあるという流れでないと、他の委員がおっしゃっていたように、「他のところは置いてきぼりなの？」というのがあるのかなと思いました。6章にたくさん施策があるのはわくわく感があり、市民として ICT によってこんなことができるようになるのだというのは、すごくわくわく感重要だと思います。それをなくさないで、一部の人にメリットがあるようにならない書き方は重要だと思います。

(委員)

有識者会議の中で、暮らしやすい札幌を具体的にするというのは難しい気がします。ですから概要は概要にしておいて、その中に、組織を作れば良いというものではないですが、いくつかの具体化するような組織層を作ってそこで検討してもらおう形。そこまでを戦略の有識者会議でやって、具体的なことでこういうものが出ていますよ、では他の大きなテーマの中で、そこはどうしましょうか、という投げかけまでにした方が良いと思います。変に誤解される気がします。産業界でアイデアを持っている人がたくさんいると思うので、そこをくみ上げる仕組みを作りましょう、組織を作るのが良いわけではないけれど、具体化していった、同じような層に並べていくというのが良いのかなと思いました。

(委員)

今日の資料を見ていると、こういうことをやればよいということが拡散している気がしています。これをするために芯になるものを一つしなければいけないというところがなくて、芯になることが分かりやすいところをモデルにして書いてしまっているところで、それが本当に芯なのかが見えていないです。たぶんこれをやろうとすると、何か大きなプラットフォームを作って、その上で、いろいろなものが追加されていくことによって、今出ているような概要案のものが実現できているということを検証しなければいけないのではないかと。仮説と検証をしなければ、戦略を作ることはできないのではないかとという気がします。あくまでもやりたいことだけ挙げていて、これに対する施策への仮説がまだ不十分ではないかと。その仮説が出てきて、実際に書かれていることが実現できるのかというのを検証するのがこの会の役目ではないかという気がしています。

(委員)

最終的に ICT 活用戦略の出口、最終目標が書かれていないんじゃないかと思います。細かいところはこうしたいあしたいとわくわく感があるのですが、今回の札幌市 ICT 活用戦略の最終目標のところが見えないなという気がしています。

(事務局)

前回もこのような議論があった記憶があります。その解が今回の資料です。

前回も ICT はツールでしょ？という議論があって、それを使って札幌市は何をしたいのかというのが概要②の図にある「札幌の価値の創造と向上」というところです。

この後、戦略ができて、この戦略に基づいて、いろいろな事業をしなければいけないというのは、また別にレイヤーであって、この戦略に基づいて、いろいろな事業部局であったり、それを総括して管理していく部門がウォッチしていくということになります。戦略の役割としては、方向性を示すということで「価値の創造と向上」ということを ICT を使ってやるのだという札幌市の意思表示にしたいということでした。

(委員)

この資料を頂いたときに、やっとゴールが見えたなど。これまでの議論の中で出てきたのは、そういう議論の経過をたどると分かるんです。IT は何のためにあるのか、行政としての札幌市が何をなすのか、そう考えたときに、出口、ゴールが必要ですよねとって、そこがもやっとしているというのは全く同じ認識でした。分かりやすいプロジェクトがあって、これはできるねとか、これは手を付けたからやめられないねみたいなのが出てくるのは、書いた以上執行しなければいけないという、当然、そういう行動原理は出てくると思います。それは議論の中でどれをあげるか、取捨選択すれば良いので。

私が一番、今回の案で納得したのは「Sapporo Value」という価値を高めるという表現の

部分です。そこで実は見方が二つに分かれるのです。価値というのは何のためかということです。価値は二つあると思うのです。自分が持っている資産として自分がうれしいという価値と、外から見て、そこに対して投資を入れる、あるいはそこを買おうという価値の見方があります。持っているのは自分の立場と外から見た立場で、私はどちらかということ、福祉よりも札幌を投資の対象、あるいは、ここをチャンスシティとして見てほしいという外から見た価値を Sapporo Value の中にぜひ入れてほしい。その見方を分かるように書いてほしいというのがあります。

概要②の所を見ると、札幌の価値というのは、中にいる人から見て「札幌はいいんだよね」という書き方です。もう少し外向けの価値というのをアピールしたほうがいいんじゃないかと。

私が考えた Sapporo Value は何かというと、全然違ったんです。四つ考えました。小池百合子風に言うと、「地理的価値 (Geographic Value)」、「創造的価値 (Creative Value)」、「技術的価値 (Technology Value)」、「人的価値 (Human Value)」。この四つが僕が頭に描いた Sapporo Value なのです。それを高めると考えると、地理的価値 (Geographic Value) は、障害となっているのは「雪」なのです。そういうことに読み替えられます。創造的価値 (Creative Value) は、まさしく創造都市を宣言した我々のプライドなわけです。このプライドを中でそう言われても困るといわれても困るわけで、これは外に対する価値なんです。そう考えていくと、No Maps を推進する、チ・カ・ホのショーケース化というのは、我々が創造的価値 (Creative Value) を高めるということですね。技術的価値 (Technology Value) はまさしく IT 関係者が集まっているという根拠なんです。インフラとして持っている。それから、話題になるのが人的価値 (Human Value) で、みんなに関わってくるんです。

大上段で外向きの Sapporo Value という定義をかかげてみたらどうかと。今日、私が言いたかったことです。

(委員)

今おっしゃったことと似たようなことを考えていたのですが、Value といえば KPI が必要だと思います。そうすると指標がはっきりするので、それを高めるために何をしたらいいのかというのが全部紐づいて目標を定義しやすいと思います。企業が導入しているバランスドコアカードの考え方が自治体にも導入されてきていて、それによく合っていると思います。例えば、中長期的にしか効果が上がらないことをやらなければいけないのと、短期で今やらなければいけないことと、メリハリがつけやすいし、各施策を平らに並べるのではなく、それぞれの位置付けや目標や目指す効果をはっきりさせることができると思います。あまり分かりやすい話ではないかもしれませんが、運営していく中では、そういう位置付けが重要ではないかと思いました。

(委員)

いかがでしょうか。何かご意見があれば。

(委員)

私としては、先ほど申し上げた内容だけで大丈夫です。

(委員)

数値化するという動きはすごく重要なポイントだと思います。特に ICT を活用するということで、数値として表現できる、それを高いのか低いのか評価できる、Value という考え方が重要なポイントだと思いました。

先ほどセンサーとかカメラをチ・カ・ホに設置してという話がありましたが、プライベートなこととか筒抜けになるのではないかというリスクや、悪い印象を与えてしまうことを和らげるために、例えば笑顔をセンシングして、「今日のスマイルバロメーターは 50 でした。昨日から 2%アップです」みたいなセンサーを設置して、そこを通るときは、みんなニコニコする、みたいにすれば楽しいかなど。データをとることが一つのエンターテインメントとして受け入れられるかなど。

この ICT 活用戦略を実際に進めていくに当たって、現実的にどう進めていくのかが気になっています。道からの補助金を申請して当たればやるし、外れればやらないという部分もあると思いますが。民間の活用はあり得るのでしょうか。概要の④に基本施策としていっぱい施策が書かれていて、そのうちのいくつかは実際にやると思いますが、これをやるのは市だと限界があるので、民間が手を挙げてやってくださいとお願いする。民間としてはビジネスにならないと難しいというのがあるので、例えば、何かについて貢献した企業に対しては、コストの一部分を税金から免除するとか、施策みたいなものもあり得るのかなどと思います。こういった施策を行うことで企業としてはノウハウが貯まって、それが新しいビジネスにつながる。札幌市で成功した事例をもって、他の都市に技術を売るみたいな流れを感じていただければ、そこを実証実験として取り組むのはあるのかなど。民間との連携関係はありなのか、なしなのか。どういうところまで市として民間に任せる意志があるのかを聞きたいです。

(事務局)

今おっしゃられたことを第 8 章にもっと書かなければいけないのかなど。ここで言うと、民間と一緒にするとは書いていないかもしれませんが。進捗管理は産学官連携でやりますよとか、最後に他機関連携ということで、国・道・市町村、関係機関と連携してやっていきますと、概要にとどまっていますが、ここに盛り込んでいけると良いなと思っています。そもそも産学官連携で何かをしていくというのは、札幌市は今までもそういう体制でやってきたと思っていますし、これからもその部分はきちっとしていかなければいけないと思っています。そこを色濃く出したほうが良いかなどと思いました。



(委員)

ビッグデータの収集は市がやることなのかというのがあります。市がやることによって、角がとれた当たり障りのないデータにしてしまうと、利用価値がないデータになってしまいます。一方で、民間は通信会社を含めて個人を特定できる内容のデータを取っていると思うので、それを外に出すには、差し障りのないものになって活用されていると思いますが。どうしてもビッグデータやAIを方針の中に組み込むのであれば、民間企業との連動は出てくると思うので、すべてを市がやるという形で素案に盛り込むよりは、民間企業との連携を前提として書き方にすると、もう少し現実味を帯びてくると思います。

(事務局)

特にこれから作っていかようとしている札幌市 ICT 活用プラットフォームが概要③にありますが、ここはまさに民間と一緒にしていかないと意味がないと思っています。この会議でも話があったと思いますが、使えるデータ、みんなが欲しいデータは民間が持っているというのがあって、そこをきちんと連携していかないと成り立たないと思っています。概要③の右上の図のプラットフォームを構築するということはかなり意識してやっていかようと思っています。ただ、最初に民間を含めて議論した際に、こういうことを地域で進めていくときに行政が旗を振っているとか、行政が看板を掲げていることのやりやすさもあるので、その部分を行政が担ってくださいというお話もありました。そこを出しつつ、民間とやっていかようと思っています。

(委員)

ありがとうございます。最後にご発言したい方はいらっしゃいますか。

(委員)

先ほど、目標が見えないとお話をしましたが、他の委員の話聞いて、よく分かりました。見えてきた部分がありました。生活する市民としてICTを使つての満足度の向上と、それから投資価値という意味合いで考えると、将来的な目標として数値化できる。この中には数値として記載することはないと思いますが、この戦略が成功したかどうかをここで測れるなというのが見えるということで、整理できたと思いました。

(委員)

この戦略は、基本的には有識者会議が書いているわけではなくて、札幌市が書いているものについて、コメントを言っているという立ち位置なので、わりと自由に言っていて問題ないです。時々勘違いをして、我々が責任を持つように考えがちですが、実はそうではなくて、いろいろな立場でご意見を言っていていただくということです。それを札幌市が反映す

るかしなないかは札幌市の考えになります。

時間になりましたので、検討会は終了いたします。最後に事務局からお願いします。

(事務局)

本日はありがとうございました。今日いただいたご意見や、この後、庁内での議論を踏まえまして、パブリックコメントの案を送らせていただきます。今年の12月の下旬から1か月くらいパブリックコメントを実施しまして、市民の皆さまからご意見をいただいて確定していきたいと思っております。次の会議は2月上旬を予定しております、戦略の最終版についてご報告させていただきたいと思っております。日程の調整は改めてさせていただきます。また、本日以降、ご意見がございましたら、事務局までお寄せいただければと思っております。ありがとうございました。